

平成21年度公文書館実務担当者研究会議

国立公文書館業務課連絡調整係

本研究会議は、重要な歴史資料の保存及び利用に関し、共同研究等を通じて、公文書館における実務上の問題点等の解決方を習得させることで参加者の資質の向上を図る目的の下に、平成22年1月26日（火）から同月28日（木）までの3日間、開催されました。

今年度は、国の機関を始め、道府県、市区町、独立行政法人等27機関から32名の参加がありました。

この研究会議は毎年異なるテーマを設けていますが、今年度は、公文書館等が直面している課題の一つでもある「電子媒体による公文書等の管理・移管・保存・利用システムについて」をテーマとしました。

日程は大きく講義の部と討論の部に分けられ、講義の部では、外部講師による講義や、当館職員によるこれまでの内閣府や当館の取組の紹介、総務省から国の一元的文書管理システムの説明、埼玉県立文書館から地方の現状について事例報告がありました。また討論の部では、文書管理システムの有無によってグループ分けを行い、各受講者が抱える課題と解決方法、将来的なシステムの在り方及びシステムの基本的な機能案についてそれぞれ討論を経て、各グループの討論結果報告及び全体討論を行いました。

これらを通じて、受講者からは、「電子公文書の管理・保存・利用などについての最新の研究成果を確認した上で、それぞれに事情の異なった組織に属する実務担当者同士での議論がなさ

れたことで、知識の具現化ができ、大変有益でした。」「電子公文書等の取扱いに係る現在の状況を、その調査・研究又は実務を担っている方から直接お話を伺うことができたことは、大変有意義でした。また、グループ討論を通じて他の機関の現状を知ることができたことも、本県が電子公文書等の管理等を今後検討していく上で、参考になりました。」など多くの意見・感想が寄せられました。



杉本重雄教授の講義



グループ討論風景